

川崎市直下

マグニチュード7.3

最大震度7

20XX年、川崎市で大地震が発生! あなたはどうする!?

「発災」から「3、4日後」までの4つのフェーズでの被害状況やそのときの行政の取組をイメージしたら、「地域の主な活動」のところでチェックをしてみて、備えを始めましょう。



川崎市直下を震源とするマグニチュード7.3、最大震度7の地震が発生しました。市内で200件以上の火災が発生しました。電気・ガスは供給停止、水道や下水道も多くの世帯で使用できなくなりました。電車は運行を停止、通信も繋がりにくくなりました。

発災

市内では断続的に震度4~5強の余震が起き、そのたびに新たな被害が発生してきます。初期消火できなかった延焼が続いています。多くの市民が危険を逃れ、安全な場所に留まっています。同時に、多くの負傷者は救急車で運ばれるか、自力で病院に集まっています。

数時間後 (~6時間)

被害の状況

行政の主な取組

地域の主な活動

身の安全確保 → 安否確認 → 職員参集・体制確保 (対策本部等)

消火・延焼防止活動

消防はすぐに来るとは限りません。そのため、地域や家庭での初期消火をどれだけしっかりできるかが延焼防止のために重要です。

被害状況確認

重症者の受け入れが優先のため、軽症者等は地域や家庭での手当・看護が必要になります。

医療体制確認・確保

高層マンションにお住まいの場合は、長周期地震動により大きな揺れが長時間続く場合があるので家具の転倒や移動などに注意しましょう。

救助・救出活動

阪神・淡路大震災の時は、被災家屋から助け出された人々の約2割が消防によるもので、残りの約8割は自力または地域住民によるものでした。被災直後の救命救急では、地域の救助活動がとても重要になります。

身の安全確保

家庭内初期消火

救助・救命・初期消火

チェック 初期消火できる範囲や方法などは確認できていますか?

情報収集

家族の安否確認

チェック 安否確認方法(災害用伝言版 web171、ラインなど)は確認できていますか?

安否確認

近所同士で声掛け合い、助け合い

チェック 日頃から近所の方と挨拶などできていますか?

一時避難

在宅避難生活

チェック 停電・断水の状況で何日も自宅過ごす

チェック 自宅内で、家具の固定など安全対策はできていますか?

チェック 一時避難する場所は確認できていますか?

チェック 非常持ち出し袋の用意は確認できていますか?

自宅の備蓄を消費

トイレが使用できないことを前提とした備えが必要です。